

令和6年8月2日

白石市教育委員会(定例会)議案

白石市教育委員会

令和6年8月2日

白石市教育委員会(定例会)

参 考 資 料

白石市教育委員会

## 第30号議案

教育に関する事務の点検・評価報告書(令和5年度実施事業)について(案)(継続審議)

令和6年8月2日 提出

白石市教育委員会 教育長 半沢 芳典

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	1-(1)(2) 施設設備や教具等の充実と効果的な活用		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設及び設備の適切な維持管理を行い教育環境の充実を図る。		
1. 令和5年度予算額	13,645千円	2. 令和4年度決算額	26,382千円
3. 令和5年度の 事業内容	<p>○児童生徒の安全安心を最優先に考え、施設小・中学校及び幼稚園の定期的な保守点検及び修繕等により、維持管理を行う。                  (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。限られた財源であるので、必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。また、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、補正予算により対応している。)</p> <p>○令和3年4月27日に発生した白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、再発防止に取り組む。</p> <p>○令和4年3月16日の震災の影響で数多く生じた小規模な不具合箇所を引き続き修繕する。</p> <p>○令和5年4月1日開校の白石南小中学校について、校舎は長期間未使用だったため、使用後の状況を注視し、不具合が判明した場合、迅速に対応する。</p>		
4. 事業の実績	<p>○当初予算(修繕費)にて167件の修繕を行い、補正予算により必要性・緊急性などを勘案して15件修繕を行った。(当初予算のうち、教具等の簡易な修繕は、各学校に配当している予算にて対応)</p> <p>○白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、定期的に専門的な安全点検を行う計画を作成し、本年度より一般社団法人宮城県建築士会白石刈田支部の協力による点検や市技術職員による点検を行った。</p>		
5. 事業の成果・ 課題等	<p><b>【成果】</b></p> <p>○必要性・緊急性を勘案しての修繕については、全て完了することができた(消防設備定期点検で判明した消防設備修繕等は補正予算で対応)。</p> <p>○学校施設等安全点検の計画を作成し、専門的な安全点検を行うとともに、市教委と教職員が合同で安全点検を行い、安全点検方法について適切かつ具体的な知識を身に付け、各学校における安全点検の充実を図った。</p> <p>○白石南小中学校校舎は、開校後判明した設備等の不具合を適時修繕し、使用に支障ないよう対応した。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>施設設備の経年劣化による老朽化が進んでいる。屋根の雨漏りや水道管の漏水、設備機器などの故障が発生した場合、出来る限り速やかに対応はしているが、予防的な修繕にまで十分には手が回らない。急激に少子化が進んでいる現状を踏まえ、今後の学校教育、保育について検討段階にあるが、児童生徒の安全安心を最優先に考え、「白石市学校教育施設個別施設計画(令和3年3月策定)」を考慮しつつ施設の維持管理や長寿命化を図って行く必要がある。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	学力向上プロジェクト事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 (3)学習指導の充実		
事業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上を図り、本市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を高めることを目指す。</li> <li>・学力向上グランドデザインを踏まえた実践を通して、児童・生徒の学力の向上を図る。</li> <li>・学力・学習状況調査等を踏まえ、その課題を明確にして学習指導等に生かす。</li> </ul>		
1. 令和5年度予算額	9,684千円	2. 令和4年度決算額	8,639千円
3. 令和5年度の 事業内容	市独自の学力調査を実施し指導改善に生かしていくほか、令和元年度から3年間にわたり受託した宮城県の「学力向上マネジメント支援事業」を継続・発展させた本市「学力向上グランドデザイン」の取組を基に、学力向上におけるPDCAサイクルを推進し、学力向上を図っていく。		
4. 事業の実績	<b>【白石市学力調査の実施】</b> 埼玉県との共同実施による白石市学力・学習状況調査を5月に実施したほか、12月には標準学力調査を小・中学校全学年において実施した。		
	<b>【教員研修会の実施】</b> 5月12日：学力向上に係る管理職研修会 11月13日：教育アドバイザーによる学力向上研修会①(教頭、学力向上推進委員対象) 11月14日・15・16日：教育アドバイザーによる学力向上研修会②(14、16日：小学校、15日：中学校) 10月20日、11月17日、12月6日：算数科学力向上研修会(一小、小規模小学校、中規模小学校) 11月21日：管理職研修会(非認知能力と学力の関係) ※9～12月：中学校区授業参観研修会(市内全小・中学校1回ずつ実施) ※通年：白石市教育委員会指導主事派遣事業(要請があった学校対象) ※年5回：学力向上推進委員会		
5. 事業の成果・ 課題等	<b>【各種検定補助、中学校校内実力テスト実施に対する補助】</b> ・漢字検定：2回(のべ343人)、数学検定：2回(のべ175人)、英語検定：3回(のべ263人) ・中学校実力テスト(1年：2回、2年：3回、3年：5回)		
	<b>【成果】</b> ・全国学力学習状況調査の結果は、改善傾向にあり、県平均比較では、中学国語は同等、それ以外の教科は全て上回る結果であった。 ・これまでの取組から、各校において自主的、積極的な取組内容の工夫改善、定着が見られ、その主体性が学力の向上・改善につながったと考える。特に、結果分析を基に各校での学習指導の改善及び児童生徒一人一人の「つまずき解消」の手立ての構築・実施など、学力向上におけるR-PDCAサイクルが確実に実施されていた(教師意識、学力向上推進委員会議より)。 ・非認知能力と学力の関係について研修を通して全市教員の理解が進み、その視点で学力向上を推進していくという意識の高まりは成果と捉えている。特に、学力調査の結果から学力の伸びと非認知能力の変容を基に、授業改善及び個に応じた指導の充実につなげることができた。 ・年度当初に学力向上に係る管理職研修の実施により、全市内小中学校が共通理解のもと取組が推進されたことは学力向上の一要因と考える。 ・過去に受検している児童生徒が再度、受検に申し込むことが認められ、このことは学びへの意欲、挑戦意欲の向上と捉えられる。また、保護者の経済的負担の軽減にもつながった。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 令和5年度予算額	28,162千円	2. 令和4年度決算額	27,281千円
3. 令和5年度の事業内容	令和3年度より文部科学省の教育課程特例校(通称:英語特区)の指定を受け、特別な教育課程の編成を行い、小学校低学年での外国語活動及び中学校1・2年生でのコミュニケーションを重視した活動である「しろいしイングリッシュ」を実施している。 令和5年度は、令和4年度と同様に派遣会社より5名、市直接雇用1名の6名体制で市内全小・中学校及び幼稚園・保育園(市立・私立)にALTを派遣し、外国語・国際理解教育の強化を図った。		
4. 事業の実績	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和4年度】 白一小153(496) 白二小162(532) 越河小43(214) 大平小77(220) 大鷹沢小78(256) 白川小67(217) 福岡小54(204) 深谷小47(149) 小原小中83(269) 白石中203(433) 福岡中99(190) 東中208(705) 第二幼20(40) 私立幼稚園・(市立・私立)保育園26(44) 合計1,320(3,969)		
	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和5年度】 白一小167(489) 白二小157(528) 越河小45(202) 大平小78(248) 大鷹沢小69(241) 白川小71(218) 福岡小51(211) 深谷小45(148) 小原小中84(285) 白石中209(666) 福岡中115(188) 東中205(718) 南小中学校3(8) 第二幼20(40) 私立幼稚園(市立・私立)保育園25(27) 合計1,344(4,217)		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>教育課程特例校として、ALT6名体制で学校等への派遣を実施したことにより、対応時数が増加し、ALTを授業だけではなく学校行事等で安定的・効果的に活用する機会を増やすことができた。特に、深谷小学校においては、全校児童を対象としたクリスマスイベントをALT派遣会社が主催し、異文化交流に対する理解を深めるとともに英語によるコミュニケーション力を高めることに寄与した。</p> <p>また、幼稚園や保育園へのALT派遣も計画的かつ積極的に実施し、小学校就学前からの途切れない英語教育の推進を図ることができた。</p> <p>R5. 12月の市学力調査の中学校英語では、学年が上がるにつれ全国平均との差が縮まり、中学3年は全国平均と同等(2校)または全国平均以上(2校)となるなど、その成果が認められる結果であった。</p> <p>【課題】</p> <p>既存の外国語活動に加えて、教育課程特例校としての取り組みをより一層推進するため、学校間の情報共有や、市教委・学校等・派遣会社との調整・連携を更に強化するなど、外国語・国際理解教育の充実改善に向けた検討を今後も計画的に進めていく必要がある。</p>		
6. 内部評価	<b>A</b>	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	生徒指導関係事業	担当課	学校管理課
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む「心の教育」の推進 (2)生徒指導の充実 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進 (4)いじめ等防止対策の推進		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 令和5年度予算額	20,875千円	2. 令和4年度決算額	19,492千円
3. 令和5年度の 事業内容	学びの多様化学校(白石きぼう学園)、白石市教育支援センター(子どもの心のケアハウス)、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)の運用と活用。学び支援教室の運営。みやぎ「魅力ある・行きたくなる」学校づくり推進事業の実施。いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会の開催。		
4. 事業の実績	<p>【令和4年度】</p> <p>ケアハウス: 支援児童生徒実人数195名(学校復帰児童生徒実数5名)、保護者支援総数241名          相談センター: 相談件数32件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数50件(146名)          仙南けやき教室: 通所者6名、相談件数98件          スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数30名、訪問活動回数213回          スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童177件、教員46件、保護者378件          相談件数 中学校生徒263件、教員13件、保護者162件          学び支援教室: 利用者数 白石二小4名、白石中19名</p> <p>【令和5年度】</p> <p>教育支援センター: 支援児童生徒実人数330名(小学生187名、中学生143名)          (学校復帰5名、支援センター通所27名、けやき教室通所2名)          相談センター: 相談件数12件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数69件(251名)          仙南けやき教室: 通所者9名、相談件数88件          スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数52名、訪問活動回数228回          スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童234件、教員214件、保護者365件          相談件数 中学校生徒259件、教員41件、保護者177件          学び支援教室: 利用者数 白石二小12名、白石中13名</p>		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】</p> <p>各機関への相談件数や支援者数は増加傾向にあり、困難さや問題を抱える児童生徒・保護者へ積極的に関わっていることの表れであると考え。これまで同様、SSWの活動拠点を白石市教育支援センター(子どもの心のケアハウス)に置き、連携を図りながら、学校や家庭の相談・要請に柔軟に対応できている。また、学校や関係機関等とより強固な連携を図りながら児童生徒や保護者への支援を行った。令和5年度は学びの多様化学校「白石きぼう学園」を開校し、学びの場の選択肢を増やし、不登校支援の充実を図るとともに、県の事業である「行きたくなる魅力ある学校づくり」事業を推進した。白石きぼう学園の中学校卒業生8名全員が高校進学をし、また、令和5年度の本市の中学校全体の不登校数が減少したことは、これまでの取組の大きな成果と捉えている。「いじめ防止大会」は、多くの児童生徒が参加できる良さを生かしてオンラインで実施し、各学校の主体的・積極的な取り組みの情報交換ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>不登校児童生徒は毎年増加しており、小学校児童の増加が特徴として現れるなど、喫緊の課題である。「魅力ある学校づくり」を進めるとともに、学校や関係機関、民間団体とより強力な連携を図り、個々に応じた見立て(アセスメント)による支援を行うことができるよう、「教育支援センター」としての機能を有した心のケアハウスの支援体制や連携の強化等、関係する施設の充実を図っていくことが一層求められる。</p>		
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 令和5年度予算額	5,358千円	2. 令和4年度決算額	3,954千円
3. 令和5年度の事業内容	家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。 ○家庭教育支援 ・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催 ○学校教育支援 ・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行 ○地域活動支援 ・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業 ○放課後子ども教室 ・越河小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの連携型及び校内交流型で運営		
4. 事業の実績	・ボランティア派遣学校数：小学校及び中学校計15校(13校)、市内幼稚園1園(市内幼稚園1園) ・年間活動日数：第一小245日(208日)、第二小47日(233日)、越河小21日(44日)、大平小24日(14日)、大鷹沢小63日(216日)、白川小26日(21日)、福岡小51日(241日)、深谷小33日(32日)、小原小40日(51日)、白石南小9日(0日)白石中0日(74日)、福岡中31日(42日)、小原中3日(21日)、東中17日(3日)、白石南中9日(0日)、第二幼稚園8日(9日) ・家庭教育学習講座の実施数：4校(5校) ※()の数値は昨年度		
5. 事業の成果・課題等	<b>【成果】</b> 標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。これまでの実績を踏まえ、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている。学校教育支援ではボランティアの人手はまだまだ必要ではあるが、校外活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動していただき、放課後子ども教室・家庭教育支援は継続して実施できた。 <b>【課題】</b> 全国的な傾向ではあるが、少子化が進み、学校の統廃合により特色ある教育活動・伝統文化の継承が困難となり、地域コミュニティの衰退も懸念される現状である。今後も地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			



基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡環境整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	<p>市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。</p>		
1. 令和5年度予算額	13,858千円	2. 令和4年度決算額	30,491千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>史跡環境整備事業では、白石温麺が文化庁の百年フードに認定されたことを受け、白石の伝統産業でもある白石温麺について、百年フード認定と温麺の歴史について解説した看板を白石蔵王駅に設置した。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において遺跡の有無を確認するための発掘調査を実施した。そのほか、斎川にある古墳の測量調査等を実施した。</p>		
4. 事業の実績	(令和5年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え1件、発掘調査29件 (令和4年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え2件、発掘調査22件		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b>                  史跡環境整備事業においては、説明板の新設により身近な地域に様々な文化遺産があることを周知することができ、その理解促進に役立った。                  市内遺跡発掘調査等事業では、発掘調査によって遺跡の状態が把握され、開発事業者と遺跡保護に向けて円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた。                  特筆すべき点としては、本市が重要遺跡の内容解明のために発掘調査を実施し、文化財行政上貴重な取り組みとなった。</p> <p><b>【課題】</b>                  市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化し、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。また、看板が設置されている文化財そのものの状況把握も課題である。                  市内遺跡発掘調査等事業は、スマートICや道の駅など大規模開発事業が複数予定されているが、対応できる職員の十分な確保が大きな課題である。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	3 生涯にわたるスポーツ活動の推進		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活気に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 令和5年度予算額	7,580千円	2. 令和4年度決算額	5,810千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○スポーツ推進委員と連携し、ふるさと球技大会や市民綱引き大会、しろいし蔵王高原マラソン大会を始めとした各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市スポーツ協会事業)及び学校施設開放業務</p> <p>○白石市グラウンド・ゴルフ場【若林弁天パーク】を活用した市民グラウンド・ゴルフ大会を開催し、生涯スポーツを通じた市民の健康維持・増進と地域活性化を図った。</p>		
4. 事業の実績	<p>○ニュースポーツ移動教室 (R5実績)計11回開催(うち小学校7回、地区公民館等4回)、参加者(延べ)562名</p> <p>○各種スポーツ大会の開催 市民グラウンドゴルフ大会、白石市ふるさと球技大会、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民体育大会、市民・小学生シャフルボード大会、市民綱引き大会</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらい良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p>【課題】 少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続き地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。さらに、ニュースポーツを継続して取り組める場所を含めた環境の整備を図っていきたい。併せて、グラウンド・ゴルフ場の利用促進を図っていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-①		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 令和5年度予算額	千円	2. 令和4年度決算額	千円
3. 令和5年度の 事業内容	<p>市民の方々の自由な学習活動を促進し、自主的な活動を活発なものとしていくために、地域の活動拠点としての集会の場の確保、学習情報等の提供を行うなど、グループ・団体の活動の支援を行った。</p> <p>また、貸館業務のほかにも、地域における課題、市民の方々の学習要求を的確に把握して、継続的、または計画的に教室や講座などの学習機会を企画・実施し、終了後の自主的活動サークル化への助言等も行っている。</p>		
4. 事業の実績	<p>●利用回数：(R4)1,799回 (R5)1,897回</p> <p>●利用人数： (R4)27,326人(うち 主催事業 444人、社会教育関係団体 15,931人、その他 10,951人) (R5)29,889人(うち 主催事業 1,590人、社会教育関係団体 16,997人、その他 11,302人)</p>		
5. 事業の成果・ 課題等	<p><b>【成果】</b> 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し行動制限などが行われなくなったため、サークル活動や講座が平常どおりに行われるようになったことなどから、中央公民館の利用回数は対前年度比98回増(+5.4%)、利用人数は対前年度比2,563人増(+9.4%)となった。</p> <p><b>【課題】</b> 生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、引き続き、利用者のニーズに合わせた支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努めていく。</p>		
6. 内部評価	<b>A</b>	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業(基本方針)	学校教育の充実	担当課	学校給食センター															
事業名	学校給食運営事業																	
重点施策 (白石市の教育より)	1-(5)学校給食の充実と食育の推進																	
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。																	
1. 令和5年度予算額	277,385千円	2. 令和4年度決算額	270,920千円															
3. 令和5年度の事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。</li> <li>・学校給食残食調査を実施する。</li> <li>・実証実験に伴い夏季・秋季・冬季休業日の一部が登校日となることに伴い給食提供を実施する。</li> </ul>																	
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒が正しい食事のあり方や望ましい食生活を身に付け、自らの健康管理ができるように「給食一口メモ」や「給食図鑑」の給食指導資料を提供し支援した。</li> <li>・児童・生徒の給食の摂取状況を把握し、今後の献立作成や給食指導の参考資料にするため学校給食残食調査(11/13～11/17)を実施した。</li> </ul>																	
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「給食一口メモ」は、給食の時間に校内放送で読み上げお知らせしたり、担当が給食時に説明をしている。</li> <li>・「給食図鑑」は、配膳場所等に掲示し子どもたちがいつでも見られるようにしている。</li> <li>・アレルギー対応食の給食を提供しているが、誤食の事故は無かった。</li> </ul> <p>児童生徒数と年間提供食数</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>1,292名</td> <td>241,478食</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>774名</td> <td>136,256食</td> </tr> <tr> <td>幼稚園:</td> <td>30名</td> <td>4,040食</td> </tr> </table> <p>うちアレルギー対応食提供の児童生徒数と年間提供食数</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>6名</td> <td>1,529食</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>2名</td> <td>377食</td> </tr> </table> <p>・残食調査による残食率〔市内平均〕 ※( )内は令和4年度の数値</p> <p>小学校: 主食9.5%、主菜14.5%、副菜17.9%、食缶(汁物)10.6%、牛乳0.0% ( 8.6%、 16.0%、 26.5%、 11.2%、 0.7%)</p> <p>中学校: 主食13.2%、主菜 9.4%、副菜21.0%、食缶(汁物)12.6%、牛乳2.0% ( 13.7%、 10.3%、 24.4%、 14.9%、 4.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和時代の新たな学校の在り方を探るための実証実験」で夏季冬季休業日の一部を授業日に振り替え登校日となったことに伴い給食提供を実施した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <p>児童生徒が苦手意識を持つ献立についても食材の調理方法や味付け、また、組み合わせる食材を工夫し食べる機会を作ることで、成長に必要な栄養素の適切な摂取量を充足させていくのが肝要なことであると感じています。学校全体での指導や取り組みのみならず、家庭への働き掛けなど連携を深めていきたい。</p>			小学校:	1,292名	241,478食	中学校:	774名	136,256食	幼稚園:	30名	4,040食	小学校:	6名	1,529食	中学校:	2名	377食
小学校:	1,292名	241,478食																
中学校:	774名	136,256食																
幼稚園:	30名	4,040食																
小学校:	6名	1,529食																
中学校:	2名	377食																
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した															
B		目標をほぼ達成した																
C		目標をやや下回った																
D		目標を下回った																
7. 外部評価																		

基本事業	社会教育の充実	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(1-(5))・図書館サービスの充実(4)		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まで、すべての市民の生涯学習の場として資料や情報を収集、提供し「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 令和5年度予算額	31,433千円	2. 令和4年度決算額	34,720千円
3. 令和5年度の事業内容	(1) 各分野の資料を収集、提供するとともに、利用者の視点に立った書架の整備を進めることで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) インターネット技術を活用した電子図書館や予約サービスを提供し、利用者の利便性の向上を図った。 (3) 移動図書館車「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (4) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働による図書館環境の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出点数は、一般書が48,787点(-558点)、児童書が45,915点(+1,600点)、視聴覚資料及び雑誌が6,343点(-536点)、合計101,045点(+506点)であり、貸出人数は22,487人(-348人)であった。 (2) インターネット予約サービスの利用者は、予約数896件(-12件)であった。 (3) 電子図書館の利用者は、アクセス数4,352回(+1,151回)、延べ貸出点数3,480点(+825点)であった。 (4) 市内15箇所(-1箇所)のサービスポイントにおいて、5,081点(-206点)の図書を貸出した。また、21箇所(+1箇所)の配本所に6,638点(+288点)の図書を配本した。 (5) 書架整理8人(±0人)、読み聞かせ19人(+5人)、図書館支援5人(-1人)のボランティアに登録いただき、延べ184回(-5回)の活動を行った。		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b>                  電子図書館については小学校における朝読書の時間での活用などが定着し、アクセス数、貸出点数ともに大きく実績を伸ばすこととなった。また児童書の貸出点数も伸びていることから、電子図書館の利用により児童の読書への興味・関心が醸成され、実物の本の利用へと繋げることができていると推察される。</p> <p><b>【課題】</b>                  利用者(貸出者)の延べ数を見ると、中学生・高校生(13~18歳・383人)の値が児童(0~12歳・4,839人)の10分の1以下となっている。学校生活や環境の変化の影響もあると考えられるが、その時の感性でしか得られない読書体験や進路選択の参考資料の提供など、中学生・高校生という多感・多忙な時期に図書館として力添えできることから、中学生・高校生に向けた図書館づくりも行っていく必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(1-(5))・図書館サービスの充実(4)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに得られる文化意識の基礎の充実を図る。		
1. 令和5年度予算額	— 千円	2. 令和4年度決算額	— 千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>(1) おはなしひろば アテネ絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居の読み聞かせ等を行い、子ども読書活動を推進した。</p> <p>(2) えほんであそぼう アテネ絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせとともにテーマに沿った折り紙を折るイベントを開催した。また、大人向けの絵本セラピーを開催し、幅広い年代に向けて読書活動を推進した。</p> <p>(3) 出前読み聞かせ・ブックトーク 保育園、幼稚園及び小学校において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせ及びブックトーク(あるテーマを立てて子どもたちに何冊かの本を順に紹介し、紹介した本や読書への興味を持たせる活動)を実施し、子どもの読書意欲を高める活動を行った。</p>		
4. 事業の実績	<p>(1) おはなしひろば 開催回数:13回 参加人数:大人 31人 子ども 185人 ボランティア 32人 (-8回) (+6人) (+90人) (+8人)</p> <p>(2) えほんであそぼう 開催回数:6回 参加人数:大人 24人 子ども 20人 ボランティア 6人 (-1回) (-3人) (-6人) (-1人)</p> <p>(3) 出前読み聞かせ・ブックトーク 開催回数:52回 参加人数:大人 136人 子ども 1,112人 ボランティア 101人 (+2回) (-10人) (-38人) (+12人)</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b> 「おはなしひろば」はボランティアの都合により開催回数が減ったものの第一児童館の子どもたちに好評であり、毎回積極的に参加してくれていることから、参加人数の実績を伸ばす要因となった。また小学校高学年向けに「ブックトーク」を開催し、読み聞かせによる受動的な読書ではない、能動的な読書へのきっかけづくりを行うことができた。</p> <p><b>【課題】</b> 読み聞かせボランティアの登録人数は前年度から5人増えたものの、実際に読み聞かせを行う方が減り、少ない人数で開催回数をこなすことになった。また「ブックトーク」を行うことができるボランティアも少人数であることから、今後も新たなボランティアの獲得と育成を行う取り組みを実施していく必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

第35号議案

白石市指定有形文化財の指定について(案)

令和6年8月2日 提出

白石市教育委員会 教育長 半沢 芳典

## 第35号議案

### 白石市指定有形文化財の指定について（案）

このことについて、下記の文化財を白石市指定有形文化財（美術工芸品）に指定する。

#### 記

1. 名 称 渡辺家文書
2. 種 別 美術工芸品
3. 所有者 渡邊 信男

令和6年8月2日 提出

白石市教育委員会 教育長 半 沢 芳 典





## 1 指定対象

渡辺家文書のうち、白石市に寄託されている凡そ 35,400 点 (文書分類 W1~W17)

対象資料の年代 延宝4年(1676)~昭和40年(1965) ※年代不詳を除く

## 2 調査の実施

渡辺家文書の調査略年譜

年次	事項
1971~87	『白石市史』(全7巻)編纂事業の後半に所蔵者より白石市へ資料を寄託
1991	所蔵者の依頼を受けて、中橋彰吾氏など有志による整理・解読作業開始
2004	白石市文化財調査報告書第28集『渡辺家文書調査報告書仲間義定録』刊行
2013~継続	渡辺家文書調査研究会の目録作成・撮影開始、白石古文書サークル発足
2015	渡辺信男編著『ある百姓の覚え書き』刊行
2016~継続	白石市文化財調査報告書第49集『渡辺家文書Ⅰ~現況目録1~』刊行 (2024年刊の『渡辺家文書Ⅵ』まで継続中)
2020	渡辺信男編著『渡辺家文書 道中記』刊行
2022	パネル展示「白石商人の足跡~渡辺家文書調査から~」開催
2023	上廣歴史文化フォーラム「多面性を持つ近世白石商人―渡辺家文書の調査から―」開催
2024	現在：現況目録6冊(18,436点所収)、推定約36,000点を確認

## 【調査略歴】

本文書群は、江戸時代から白石市中町（現在の壽丸屋敷）で商業を営んでいた渡辺家（屋号＝渡辺屋、屋印（商号）＝〇・寿丸）に伝来した歴史資料である。上記のとおり、白石市では所蔵者の渡辺信男氏から文書群の寄託を受け、中橋彰吾氏など地元の歴史研究者たちの尽力により、2004年には白石市文化財調査報告書第28集を刊行した。しかし、3万点を超える文書群の全容を解明するには、詳細な文書目録の作成を必要とするため、2013年8月から白石市教育委員会生涯学習課と東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門の共同調査を開始し、目録作成および写真撮影などの作業を進めてきた。また、貴重な歴史資料を多くの研究者や市民に公開し、積極的な成果発信を期待すべく、2016年から文書目録および関連論考を収載した調査報告書を順次発行している。また、渡辺信男氏によって2冊の書籍が刊行されているほか、企画展示や講演会などを開催し、白石市民や関心のある古文書愛好家にも随時情報を提供し、現在に至っている。

## 【近世の渡辺家】

祖先・渡辺平右衛門は、伊達晴宗の家臣といわれ、天正年間（1573～92）に陸奥国安達郡小浜村（現・福島県二本松市）で帰農、その後白石へ移住し、その五代のち小右衛門定吉（寿丸渡辺家初代）が18世紀初頭に本家（同じく白石中町・渡辺伊太右衛門家）より独立した。渡辺家は初代定吉以降、屋号を「渡辺屋」、屋印（商号）を「寿丸（すまる）」として、明治時代にかけて多角的経営（「万商い（よろずあきない）」）を展開した。おもな取扱商品は、太物・古手・紙・紙布・塩・質屋・醤油・味噌、さらに幕末期には生糸などを手がけている。そのうち、太物や古手は江戸や関東方面、そして山形経由で上方から仕入れ、白石で販売をおこなった。紙および紙布は、白石および周辺村落における名産品で、これらの品物を集荷し、仙台北下や江戸方面へも出荷をしている。

当時、仙台藩は塩の流通統制を敷いており、その売買に携わるため渡辺家は幕末期に「御塩問屋」の許可を受けたほか、白石城下の町人居住地6か町で唯一質屋が存在しなかった中町に質屋を開業したのも弘化3年（1846）11月のことであった。醸造業は、渡辺屋の生業において歴史は古く、安永8年（1779）に醤油造りを開始したといわれる。太物や古手などは、比較的自由的な商売ができていたものと考えられるが、右に挙げた多くの業種については仙台藩の公許が必要で、またそれを得るためには白石城下を支配する片倉氏の意向も反映されたものとみられる。

生業の経営資料は膨大で、江戸時代後期より明治・大正期における白石および周辺地域の経済状況を明らかにすることのみならず、白石中町の検断職など地域運営の内情や、幕末期に至るまで片倉家御台所持方御用達主立（おもだち）をはじめ、片倉家臣団の一員として、とくに同家財政への大きな貢献についてもたくさんの記録を含む。

初代定吉から五代興左衛門好直（享和元・1801年没）までの事績は関連資料が少ないものの、6代儀蔵喜治以降は渡辺家文書のなかで情報が増えてくる。

6代儀蔵喜治の事績 \*天保8年(1837)没

年次	事項
文化6年(1809)	片倉氏へ「金献上」、屋敷引・無年貢(350文)を認められる。
文化7年(1810)	片倉氏へ「金献上」、知行高161文を与えられる。
文化11年(1814)	金110切(=27両2歩)を献上。
文化13年(1816) 片倉氏より御台所持方に任命、金200切(=50両)を献上。	片倉氏より御台所持方に任命、金200切(=50両)を献上して「永々御鷹匠列」となり、足軽へ取り立てられる。喜治から義弟左吉へ無年貢・知行高一六一文など扶持方合計五六一文を譲渡する。
文政4年(1821)	白石城再建に対する献上金、「永々御勝手役列」となる。
文政11年(1828)	片倉宗景上府(江戸行き)につき献上金、知行高500文拝領。

天保4年(1833)	金500切(=125両)を献上、知行高1貫220文拝領。
天保5年(1834)	前年凶作のため扶持米を献上、知行高一貫七二〇文の半高御借上、傑山寺(片倉氏の菩提寺)客殿普請の手伝金五両を献上、知行二五文拝領。 また領内産物の見積もりを提出するよう指示を受ける。

出典：①川村要一郎編『白石城主片倉氏と家臣の系譜』（創栄出版、1997年）、540～542ページ。②渡辺家文書W9-929-62「(覚)（天保5年11月）」。

7代甚蔵喜伴の事績 \*弘化4年(1847)没

年次	事項
天保7年(1836)	知行高885文拝領、「永々御勝手役列」、当年大飢饉のため御借上金の命令が下り、金900切(=225両)を差し上げる。
天保11年(1840)	連々違作による「(片倉)御家中一統衰弱」のため御借上金900切を融通する。この年より台所方

	月割金の制度が実施され、毎月金 25 切を支出した。
天保 12 年 (1841)	台所持方御用達主立、士格、知行高 977 文を拝領する。天保 4 年凶作御用金に関して橋元寛左衛門方へ御加増、その橋元より知行高 300 文の分地があった。
天保 12・13 年	近衛家（仙台藩主伊達慶邦の正室備子の実家）への礼金など 120 切（= 30 両）を白石の片倉氏御用達 4 名で負担する。

出典：①渡辺家文書 W7-102-58 「（上申書案）」。②渡辺家文書 W9-781-17-4 「（覚）（天保一一年二月）」。

### 3 白石市指定文化財登録の意義

東北地方全体において 3 万点以上の規模で現存する文書群はわずかで、宮城県下の商家文書としては群を抜いた数字である。点数もさることながら、その内容は各種商工業の取引関係を具体的に明らかにするもので、江戸時代における商家経営の解明に大きな貢献が期待される。白石市に限ってみても、近世からの商業・工業・地域行政などの諸分野にまたがる貴重な歴史資料という点は揺るぎない評価を与えられる。江戸時代の当地は、片倉氏を筆頭とする武家、城下の町人、周辺村落の百姓たちによって歴史を育んでいるが、その三者をつなぐ渡辺家文書の存在は、商家分析だけでなく、地域の歩んできた足跡を知る重要な手がかりである。

寄託当初、白石市史編纂事業は完成に近づきつつあり、渡辺家文書は十分に活用されることはなかったが、今回の文化財指定を契機に調査および研究が発展し、白石市の歴史分析に不可欠な資料になることが大いに期待される。

第36号議案

教育委員会感謝状の贈呈について(案)

秘密会のため非公開

令和6年8月2日 提出

白石市教育委員会 教育長 半沢 芳典